

2025年度

GB

英 語

3月12日(水)

工 学 部

15:10~16:30

【後 期 日 程】

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(3枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、6ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題は、声を出して読んではいけません。
- 6 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 7 問題冊子は、必ず持ち帰りなさい。

1

次の英文を読んで，問 1 ～問 5 に答えなさい。(配点 35 %)

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

hypothesis：仮説

(出典： “The Nobel Winner Who Liked to Collaborate With His Adversaries”. *The New York Times*.
<https://www.nytimes.com/2024/04/01/opinion/nobel-daniel-kahneman-collaboration.html> 出題にあたり一部改編した。)

問 1 下線部(1)を日本語に訳しなさい。

問 2 下線部(2)について次の質問に英語で答えなさい。What gave Professor Kahneman real joy?

問 3 下線部(3)について次の質問に英語で答えなさい。What example of “cooperation between rivals” can be found in this story?

問 4 下線部(4)の理由を日本語で説明しなさい。

問 5 下線部(5)の内容を具体的に日本語で説明しなさい。

2

次の英文を読んで、問 1 ～問 5 に答えなさい。(配点 35 %)

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

vending machine：自動販売機

fast fashion：最先端の流行を取り入れた，大量生産による安価なファッション

digital natives：デジタルネイティブ。生まれた時からデジタル環境の中で育ってきた世代

（出典：選ばない消費－選択肢が増えすぎた消費社会の新たな需要，ニッセイ基礎研究所，
<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=77562?site=nli> 出題にあたり一部改編した。）

問 1 下線部(1) consumption without choice を日本語で説明しなさい。

問 2 次の質問に英語で答えなさい。What is one example of a “consumption without choice” service mentioned in the text?

問 3 次の質問に英語で答えなさい。What are two reasons some people prefer “non-selective consumption”?

問 4 次の質問に日本語で答えなさい。What is the potential future benefit of “non-selective consumption” as mentioned in the text?

問 5 次の質問に英語で答えなさい。What are the possible risks of “non-choice consumption” and what can consumers do to reduce them?

3

次の英文を読んで、問1～問4に答えなさい。(配点30%)

著作権の関係上、公表しません。

Halley's comet : ハレー彗星 perspective : 見方 cosmos : 宇宙
superstition : 迷信 eerily : 不気味なほど

(出典: "Halley's comet is on its way back towards Earth", Popular Science
<https://www.popsoci.com/science/halleys-comet-coming-back/> 出題にあたり一部改編した。)

問1 問題文をふまえ、他の彗星と共通するハレー彗星の特徴を、50字以内の日本語で答えよ。

問2 問題文によると、文中の[A]に入るべきハレー彗星の周期はX年からY年までの間と考えられる。XおよびYとして適切な整数を答えよ。

問3 問題文によると、ハレー彗星が前回地球に最接近したのは西暦何年頃と考えられるか。

問4 問題文をふまえ、ハレー彗星が我々にとって特別な彗星である理由を、50字以内の日本語で説明せよ。

正解・解答例

教科・科目目	英語（後期日程試験：令和7年度） 1/2	問題番号	G B
対象学部・学科	工学部		
1 35% 配点 35 点	問1 お金で幸せが買えるという考えは、人間の約 85 パーセントにとってほぼ正しい。(7 点) 問2 Working with others to find answers (又は the truth) brought Professor Kahneman real joy. (7 点) 問3 Professor Kahneman and Professor Killingsworth cooperated to find out if money can really buy happiness. (7 点) 問4 カーネマン教授は、所得が増えた時の人の幸福感には限界があると考え、キリングスワース教授は、幸福感に限界はないと考えていた。しかし、新たな答えは、約 15%の人が幸福感の限界を持っているというものだった。(7 点) 問5 人々は勝ち負けにこだわるのではなく、協力して答えを見つけようとするべきだ。(7 点)		
2 35% 配点 35 点	問1 消費において選択肢の多さと、絶え間ない意思決定に伴うストレスを背景にした選択しなくて良い消費。自分の意思がなく消費（活動）をすること。(7 点) 問2 "roulette apps" that decide what movie to watch or what meal to have /AI-powered vending machines for cosmetics / music distribution services that automatically predict and play your favorite songs/ subscription services that send clothes chosen by a stylist (7 点) 問3 avoiding stress from decision-making/ the desire to avoid responsibility for choices/fear of missing out on a better choice/the enjoyment of surprise in consumption (7 点) 問4 AI によって、消費者の嗜好に基づいて最適な解決策を導き出す製品やサービスが増えるかもしれない。(7 点) 問 5 There is a concern that excessive use of such services could weaken our ability to process and respond to the ever-increasing amount of information we receive. /When faced with critical decisions requiring careful consideration, being too dependent on choices made by others might leave us unable to make decisions by ourselves. To reduce this risk, we should only use these services for unimportant matters, and not for making critical decisions. (7 点)		

正解・解答例

教科・科目目	英語（後期日程試験：令和 7 年度） 2/2	問題番号	G B
対象学部・学科	工学部		
3 30% 配点 30 点	問 1 埃まみれの氷でできており、太陽に近づくと一部が燃え尽きて長く明るい尾を作ること。 (40 字) (9%) 問 2 X: 7 5 年 Y: 7 6 年 (6%) 問 3 西暦 1 9 8 6 年頃 (「1 9 8 5」でも可) (6%) 問 4 約 7 5 年のハレー彗星の周期が、7 0 年から 9 0 年程度の人間の寿命に非常に近いから。 (40 字) (9%)		

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	英語（後期日程試験：令和 7 年度）1 / 2	問題番号	GB
対 象 学 部・ 学科(課程)等	工学部		
出題のねらい	① 物語文を読んで、話の展開や内容、登場人物の行動、場面状況等を把握する英文読解力をみる。 ② 物語文を読んで、話の展開や内容、社会問題の状況等を把握する英文読解力をみる。		
採 点 基 準 (点数は100点 満点の場合)	① 配点35% (35点) 1 7 点 2 7 点 3 7 点 4 7 点 5 7 点 ② 配点35% (35点) 1 7 点 2 7 点 3 7 点 4 7 点 5 7 点		

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	英語（後期日程試験：令和 7 年度） 2 / 2	問題番号	GB
対 象 学 部・ 学科(課程)等	工学部		
出題のねらい	③ 周期的な挙動を示すハレー彗星について書かれた文章を題材として、英語の読解力とともに、科学技術の学修に必要な論理的思考力も測れるような出題とした。		
採 点 基 準 (点数は100点 満点の場合)	③ 配点 30 % (30 点) 問 1 9 点 第 1 段落の「Like all the comets we know of」で始まる文を正しく読み取れること。 問 2 6 点 ハレー彗星が観測された年「1531」、「1607」、「1682」、「1758」の間隔が75または76であることから、その周期が75年から76年の間であると推測できること。 問 3 6 点 第 1 段落からハレー彗星の次回の地球回帰が2061年であることを読み取れ、さらに問 2 の結果を踏まえて前回の地球回帰がその75または76年前であると推測できること。 問 4 9 点 第 4 段落から、その周期が人間の寿命に非常に近いことがハレー彗星を特別な存在にしていると読み取れること。		